



ゲタの雪がこぼれ落ちて波乱の首班指名へ

あの驚愕を超えるこの驚愕が、1週間とおかずには降ってくるとは、正直夢にも思いませんでした。（以下、文中敬称略）

まずはもちろん高市自民党総裁の誕生、これが10月4日のことでした。候補者たちは「挙党一致で解党的出直し」なんて一休さんも苦笑いのたわ言を真顔で口にしつつ、裏金問題封印・除外政策強化の「反良識」路線で横並びですから、誰が選ばれても自民党が「変われ」ないことは明らかでした。ただし野田・立憲が相手ですから、総裁即総理は避けられそうにない。自民党員（議員はともかく）だって人の子だもの、さすがにいくらなんでも、国民生活にも日本の尊厳にも致命的なダメージを与えかねない高市総理は選ばないはず……甘かった。反良識の権化・麻生の妄執を見くびっていました。結果を知って軍拡、言論弾圧、マイノリティ排除と、高市の暴言・暴挙が走馬灯のように頭の中を駆け巡り、日本の最期を覚悟した人も多いかと思います。

そうしたらなんと、10月10日に公明党が連立離脱を表明したのです。たしかに同党は早くから「高市はNG」サインを出していました。でも、何が何でも与党利権にしがみつく姿を散々見せ付けられてきましたから、渋るフリして結局は妥協するんでしょ、と考えていた。ところが今度ばかりは、学会員の皆さんが許してくれなかつたようです。「選挙のたび、自民の裏金候補を心にもなく擁護するのに疲れた」、そりやそうでしょうとも！ それに女性部の皆さんも高市が大嫌い（なぜ小池は大好き??!）のようですし。

ここで、高市が首班指名の過半数を確保するためには、国民民主と維新の2党を取り込まなければならなくなつたわけですが、返す返すも残念なのは対抗が野田・立憲だということ。これを書いている11日現在、まるで先が見通せません。ただ、さしあたりどのような結果になったとしても、自民の天下は終わるでしょう。その後の混乱に、私たち国民は賢く毅然と立ち向かうだけです！

（梅丘1丁目・真藤 一彦）

笑いごとではありませぬ！ 戦争は忍び寄ってくる

脚本家の朱 海青さんよりご案内をいただき、旧友4名で前進座の「笑いごとではありませぬ！」を三越劇場で観劇。舞台は、昭和14（1939）年の戦勝に沸く帝都東京。猫塚町の駅前にある寄席・青木亭、ミルクホールを舞台に繰り広げられる人間模様。弟子3人の立場も様々で、国に同調して積極的に国策落語を披露し忙しくする者、怪我をして戦場から帰りPTSDになる者、病気でもう長くない人から鑑札をもらい生き延びている者。息子を戦場で亡くした人、恋をしている人など。

「笑いごとではありませぬ！」の笑いごとではない時代背景と合わせて見てみよう。

昭和12年（1937）7月盧溝橋事件、日中戦争始まる。8月「国民精神総動員実施要項」閣議決定。13年4月「国家総動員法」公布。15年2月芸能人の「技芸者の許可制度」導入、9月東京落語家全員は、国家新体制に即応し53種の落語禁演を自粛協定し、16年（浅草・本法寺に「はなし塚」建立。（禁演落語）12月日本軍ハワイ湾攻撃、太平洋戦争開始。

政府・軍属の指導を受けた落語界・落語家たちは、「国策落語」（落語をつうじて国家や国からの恩に報いること）で戦争遂行に協力できることは名誉なことと積極的に国策落語（スパイ狩り、スパイ御用心など）を制作した落語家もいた。禁演落語は聞かれると「国賊」「非国民」と言われるので、不忍池のボートの上だけは何でも話せる空間であり、師匠から指導をうける場であった。

同12月飼い犬の強制提出、決定。シェパード犬は軍用犬として徴用された。他の犬の運命は定かではない。北海道では猫が多く供出されたとのこと。舞台では師匠の愛犬「寿限無」は、弟子が「任せて下さい」と連れていったが…。

同時期、動物園の像やライオン、トラなどの猛獣が、空襲などで逃げ出し人を襲う恐れがある、物資不足の折動物に与える餌は無駄の理由で処分された。

昭和19年東京大空襲 全国各地で大規模な空襲。20年（1945年）8月6日広島 9日長崎に原爆投下される。15日戦争終結。

舞台の最後に「寿限無」が「ワン」と現れた！（大きな拍手）

昭和21年浅草・本法寺にて「禁煙落語」の「復活祭」が行われた。

「笑い」を売り物にする落語界にも、国家総動員法の大きな波が押し寄せ、抵抗しながらも飲み込まれていったことを改めて思った。なぜ戦争をしたのか、戦争で何が変わり、何を学んだのだろう。戦争で益を得る人はどんな人なのだろう。戦後80年、戦争は突然やって来ない。徐々にしのび寄ってくる。今、何をするのかが問われているのではないでしようか。



（代田5丁目・小澤 清子）

安保法（戦争法）強行から10年 廃止へ国会前行動に参加して

安倍晋三政権による集団的自衛権行使を容認した安全保障関連法（戦争法）の強行から10年経過した9月19日、総がかり行動実行委員会！9条改憲NO！などが「武力で平和はつくれない！強行採決から10年 戦争法廃止！9・19国会正門大行動」を行い2300人が参加しました。

大行動では「戦争法は憲法違反、戦争法は今すぐ廃止！」「憲法を生かせ」「排外主義は許さない」「敵基地攻撃は反対」などコールし、極右的潮流を許さない新しい共同を広げる意思統一の場となりました。

◇ 主催者挨拶で総がかり実行委員会菱山南帆子共同代表は「10年前には国会正門前を埋め尽くす12万人の人たちが集まり、それ以降一人ひとりの運動が広がり全国に共同の輪が大きくなってきた」と強調。国会場出が狙われているスパイ防止法は思想弾圧に他ならないと指摘し、「力を合わせて声を上げ続けよう」と呼びかけました。つづいて立憲・共産・社民党代表、移住者と連帯する全国ネットワーク・日弁連憲法問題対策本部・市民連合などの団体からスピーチがありました。

◇ 市民連合・中野晃一上智大教授は、「安保関連法案が成立すれば日本の安全が守られると力説し、違憲立法によって集団的自衛権行使が10年間容認され続けていることに対して怒りを述べ、そして「みなさんがこの10年間ずっと声を上げ、私たちを代表していくれる議員を後押ししてきたことにより日本が持ち堪えている。米国に追随し続ければ、仮に台湾有事が起きた際に、ウクライナ戦争で米政権にはしごを外されたウクライナのようになりかねない」と訴え、「もう一度大きな連帯・共同をつくり直すことが必要だ」と激励しました。

○ 参加して私の思い、私も10年前、憲法違反の「戦争法の採決は許さない」と連日国会行動に参加しました。自公政権は、この戦争法や「安保3文書（岸田内閣）」などをもとに日本は一層米国に追随し、米軍基地強化、ミサイル配備、米国製兵器購入、防衛費増強など防衛力強化へと、戦争への道が強まっています。戦争法廃止、憲法を生かし戦争がなく平和・暮らし優先の社会へ、自分としてできる行動をしていきたいと思います。

（代田5丁目・小澤 満吉）



集会等の紹介

10月26日（日）13:30～16時ころ 講演会

講演：前川 喜平さん

場所：保健医療福祉総合プラザ（うめとぴあ）会議室

主催：九条の会まつざわ 共催：代田・九条の会、代沢九条の会 資料代：500円

11月15日（土）13:30～ 創立20周年のつどい

講演：宮本 友介さん

小沢 隆一さん

場所：梅丘パークホール

主催：世田谷・九条の会 参加費：一般999円 学生無料

11月22日（土）14時～16時 学習会

講演：「監視国家化の危険性を問う」

清水 雅彦さん

場所：平和と労働センター・全労連会館2階ホール（御茶ノ水駅下車・徒歩約5分）

主催：日本国民救援会東京都本部

～私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人々に広めてください。 +++